

かかみがはら

百科

Kakamigahara

Encyclopedia

かかみがはら百科
2021 | No. 02

特集

B 熊田山北古墳群 地区発掘調査

| CONTENTS | |
|----------|----------------|
| 特集 | 熊田山北古墳群B地区発掘調査 |
| 調査速報 | 近世村別領主・石高園 |
| | 鶴沼古市場遺跡D地区発掘調査 |
| コラム | 電子ツールを使いこなす前に |
| 事業報告 | 令和2年度企画展 小島三郎 |
| 各務原を知る | 養虫山人と各務原 |
| | 前波不動山仏眼院の歴史と京都 |
| 各務原の文化財 | 明らかになった千手観音の姿 |
| TOPICS | 桂甲再現にチャレンジ! |

熊田山北古墳群

B地区 丘陵上を占有した4基の円墳の発掘調査

熊田山北古墳群とは、熊田山（標高72m）の頂から北側にかけて分布する古墳41基の総称です。今回、蘇原東栄町地内の丘陵部が宅地開発されることになり、その対象地に残る4基の古墳を記録保存することになりました。同古墳群においては二度目の調査となるためB地区と命名し、令和2年4月から9月にかけて緊急発掘調査を実施しました。



滑石製品の検出作業

作業には、細心の注意が必要です。小さな白玉を見失わないように、爪楊枝を刺しています。

祭祀用の玉類

1号墳の墓壙内（ただし、木棺の外）から、管玉1点と60点のガラス玉が、3号墳でも同様の位置から1500点を超える滑石製白玉が出土しました。

須恵器が出てこない！

古墳時代後期の古墳には、須恵器が豊富に副葬されたり、祭祀に用いられたりします。しかし、4基の古墳からは須恵器の小破片が散漫に出た程度です。この「須恵器を伴わないこと」は、4基の古墳が持つ共通の特徴といえますが、その理由は今後考えていく必要があります。

1号墳から豊富な鉄製品

4基の墳頂には、盗掘の跡が確認されました。しかし、1号墳においては、埋葬施設が中央からやや北側にずれていたことが幸いして、盗掘の影響をほとんど受けていませんでした。そのため、埋葬部分が良好な状態で残されていました。

1号墳の墓壙内からは、多くの副葬品が見つかりました。副葬品は全て鉄製品です。種類は、直刀・刀子・彎（馬具）・矛・鎌・鎗・斧です。直刀と刀子は墓壙の中央に置かれ、他の鉄製品は北側に並べられていました。

4基の墳頂には、盗掘の跡が確認されました。しかし、1号墳においては、埋葬施設が中央からやや北側にずれていたことが幸いして、盗掘の影響をほとんど受けていませんでした。そのため、埋葬部分が良好な状態で残されていました。

4基の円墳

調査の結果、1・3号墳は直径約18m、2号墳は直径約15m、4号墳は直径約30mの円墳であることが分かりました。1・3号墳は、墳丘の周りに壕（周壕）を持つ古墳です。密接していますが、お互いの周壕が重ならないように造られています。

4号墳は、3基の古墳を見下ろす位置にあります。また、墳丘の規模が最も大きいことから、4号墳の被葬者は他の古墳より地位が上であつたと思われます。

出土遺物や古墳の特徴から判断して、4基とも築造時期は古墳時代後期初頭（5世紀末）と推定されます。

埋葬施設は？

古墳の調査で最も重要視されるのは埋葬施設です。当地区では、横穴式石室を備えた古墳の可能性を想定して調査に着手しました。しかし、いずれの古墳からも石室石材は確認されず、木製の棺を土の中に直接納



丘陵上での発掘調査作業

めた埋葬方法（木棺直葬）を採用していましたが明らかになりました。

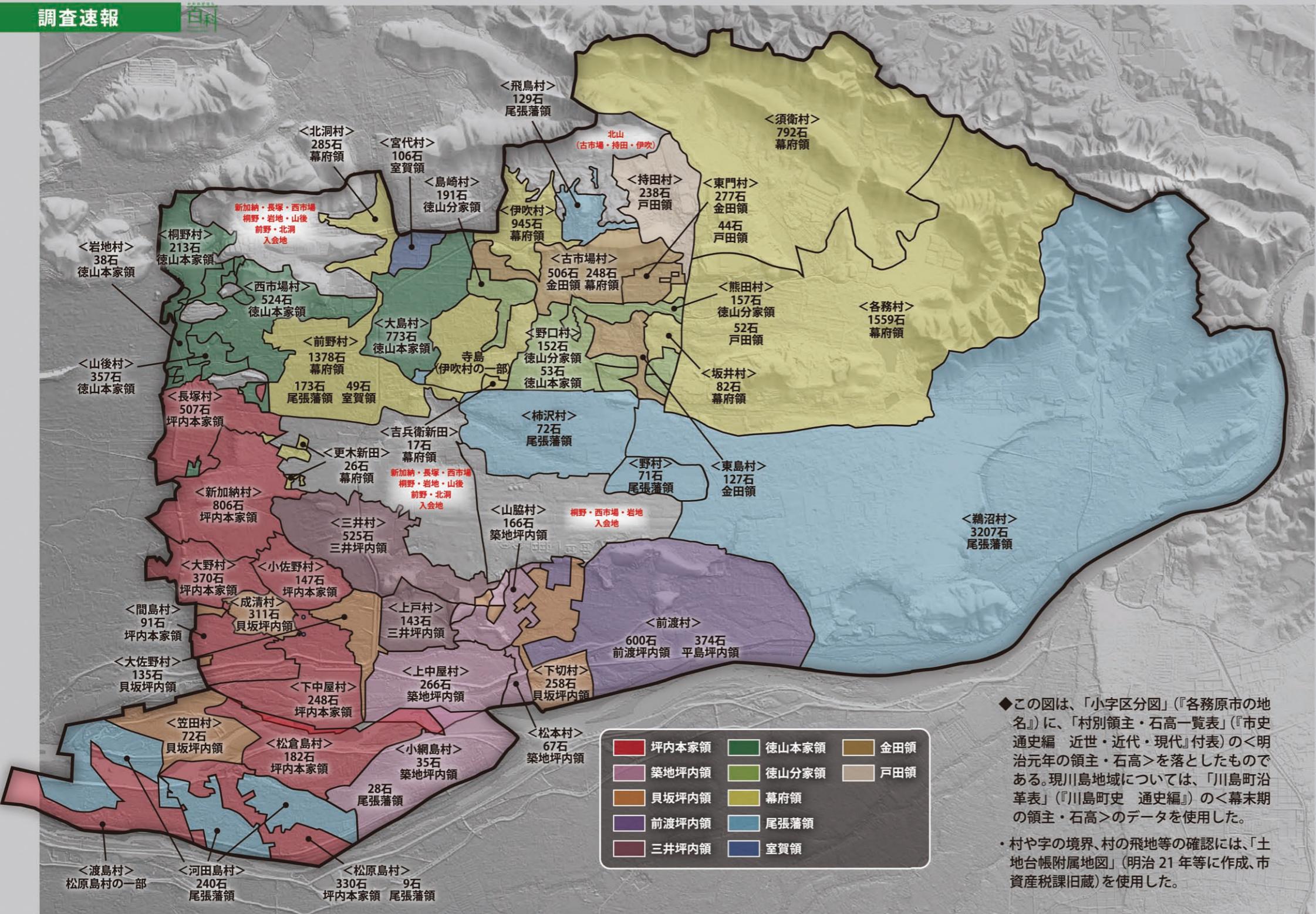
各務原市域における「近世村別領主・石高図」

近世の領主支配の様子を一目で捉えられるように、「小字区分図」と「村別領主・石高一覧表」とを合わせる作業を行いました。この「図」に関するいくつかの事柄を記します。

◆支配の地域

大きくみると、市域の東半分は広い幕府領・尾張藩領、西半分は小領主の支配が錯綜する地域と言えます。また、領主ごとにみると、次の4地域に大別できます。

- 中山道の南部で木曽川右岸堤に囲まれた、領主が「旗本坪内氏」の地域。
- 境川上流部で各務原台地の北部に位置する、「幕府領・尾張藩賀氏・徳山氏」の地域。
- 各務原台地の西半分から境川流域周辺の、領主が「旗本徳山氏」の地域。
- 鵜沼村と鵜沼村の西に連なる各務原台地上の「尾張藩領」の地域。



◆この図は、「小字区分図」(『各務原市の地名』)に、「村別領主・石高一覧表」(『市史通史編 近世・近代・現代付表』)の明治元年の領主・石高を落としたものである。現川島町地域については、「川島町沿革表」(『川島町史 通史編』)の幕末期の領主・石高のデータを使用した。

・村や字の境界、村の飛地等の確認には、「土地台帳附属地図」(明治21年等に作成、市資産税課旧蔵)を使用した。

市域中央部の東西に細長く広がる、各務原台地にあった荒涼とした草原を「各務野」と言いました。各務野の東半分は幕府・尾張藩・旗本(徳山氏・坪内氏・室賀氏など)の領地。木八ヶ村入会地と「三ヶ村入会地」とに大きく分けられ、村々が林や燃料などを得るために総有した、重要な入会地でした。

台地の西半分および那加地区北部の山地などの「更木八ヶ村入会地」は、永禄10年(1567)、織田信長が手力雄神社に帰依し、「寄附」した

ことになります。信長は、天正年間(1573~1593)の末、この土地の山地の大半を手力雄神社社領に、東半分および山地の一部を西市場村に付しました。この東半分の地域は、西市場村・桐野村・岩地村の「三ヶ村入会地」と呼ばれました。

明治39年、「更木八ヶ村入会地」は、新加納外六ヶ所大字入会地に、また、「三ヶ村入会地」は、昭和19年に「桐野外二ヶ所大字入会地」と改称されました。

地図が斑のように存在していました。中世以降も農耕地にできなかつた轟川沿いの荒地・湿地地域を、旗本の人々が少しづつ開墾していく様子が思い浮かびましたが、二つの思いを裏付ける資料は発見できませんでした。

須衛村・各務村と蘇原の村々との境界が「直線的」なのは、なぜ?

「土地台帳附属地図」で小字の位置・土地利用等を確認するなかで、成清村・間島村に下中屋村の飛地が点在していることに気付きました。木曽川は、天正14年(1586)の大洪水で流路が大きく変化しましたが、この変化で生まれた土地を、下中屋の人々が耕作地や生活場所に少しでも変えようとした結果ではないかと想像しました。また、桐野村・山後村・岩地村の轟川沿いの地域にも、形が複雑で狭い「西市場村の飛

地図」が多くの村々があるのは、なぜ?

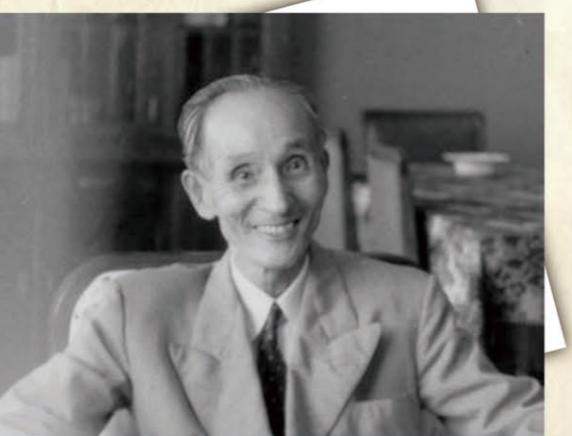
「飛地」が多いため、飛地を行なうなかで、

史資料に接する時、なぜ?と立ち止まることがあります。答えを出そと資料を探したり、考えたりするなかで、次のなぜ?が見つかります。これも作業中の「楽しみ」です。

令和2年度企画展 今だからこそ「小島三郎」

大正から昭和にかけて活躍した各務原出身の医学者、小島三郎（一八八〇—一九六二）は、様々な感染症対策を提案しました。その中には、現在の新型コロナウイルス感染症への対策に活かされている事柄がたくさんあります。

感染症対策に注目が集まる今だからこそ、郷土の偉人である小島三郎の足跡を知つていただきたいと思ふ。企画展を開催しました。



小島三郎の資料

当館では、旧川島町の頃に三郎の親族から寄贈された様々な資料を所蔵しています。今回は、三郎が記したノートや手記、手紙、三郎が下中屋の医院で使つていたという医療器具などを展示しました。特に、学生時代の手記には、養子先の義母への不満や、東大で首席を目指す決意などが示されており、三郎の性格や心情がよく分かる資料として、大きく述べました。

医学者としての活躍を知る上では、国立国会図書館のデータベースで閲覧できる三郎が記した医学論文が参考になります。また、三郎没後に彼を慕う弟子や同僚たちがまとめた「小島三郎博士追悼録」には、三郎の明るく、冗談好きで、家族思いで、眞面目かつ研究熱心な人柄がよく分かるエピソードが記されています。また、スキー連盟、高校馬術連盟などで会長を務め、スポーツ振興にも尽力していたことが分かりました。

話題に事欠かない人

三郎自筆のノートや手記からは、書かれた言葉はもちろん、筆跡からもその時々の心情が伝わってくるようを感じられました。一画一画、力強く書かれた決意の文章がある一方で、慣れない医学への不安など、苦立ちを隠しきれず殴り書きされた文章もありました。

三郎本人が記した論文や、家族に宛てた手紙からは、三郎にまつわるさまざまな人物像が浮かび上がつてきました。この企画展を通じて関心を持たれた方は、ぜひ『小島三郎博士追悼録』を始めとした資料を読んでいただき、話題に事欠かない小島三郎という人物を知つていただきたいと思います。

オリンピックと三郎

三郎が活躍していた昭和の初め頃、昭和15年（一九四〇）のオリンピックの東京開催に向けた招致活動が盛んに行われていました。当時の日本では競技用プールの衛生環境に関する整備が進んでおらず、三郎は非衛生不潔のプールを提供して外人の批難嘲笑を買わないようにしてもら



かみがはら百科+No.1
『小島三郎』パンフレット
(A4・12ページ)

歴史民俗資料館で無料配布中

かみがはら百科+No.1
『小島三郎』パンフレット
(A4・12ページ)
（引地歩）

いたい』（日本伝染病学会雑誌）一九三三）と医学者の立場から衛生的な競技会場の整備を訴えました。しかし一度は東京開催が決定しますが、国内外の情勢に鑑みて東京大会は返上され、幻となってしまいました。

一九四一年、東京オリンピックが開催予定です。以前のようにプールの衛生環境についての問題はあります

せんが、世界中で猛威を振るつて

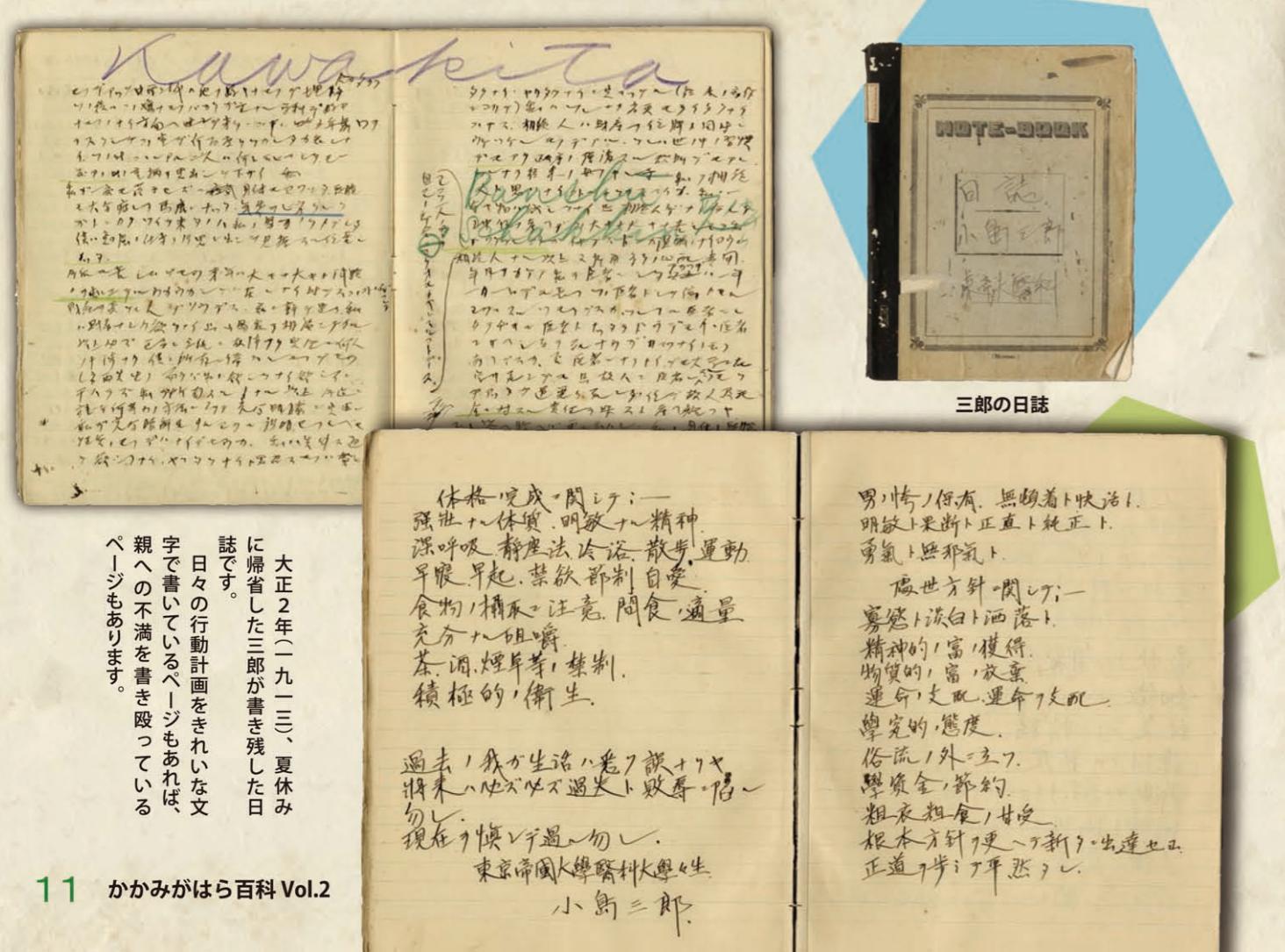
る新型コロナウイルス感染症という壁が立ちふさがっています。三郎が

プールの衛生環境を指摘した頃とは違った意味で、衛生的な開催が望まれる大会となります。三郎がもし生きいたら、感染症への対策とオリンピックの開催について、どのような発言が飛び出していたのでしょうか。

か。コロナやオリンピックのニュースを目にするとたびに、感染症とスポーツの両方に精通した三郎のことが脳裏に浮かびます。

（引地歩）

企画展では、三郎の感染症対策への貢献やスポーツ振興に尽力した功績をパネルで紹介したほか、その人柄を垣間見ることができる自筆のノートなどを展示しました。



放浪の画人 蓑虫山人と各務原

江戸末期から明治にかけて、全国を放浪し、数多くの作品を残した画人があります。その人の名は、蓑虫山人。蓑虫が家を背負うように折りたたみ式の笈(テント)のようなものを背負い、野宿をしながら放浪の旅を続けたため、自らの雅号を蓑虫山人と称するようになりました。また、自分の生国が美濃國(みのくに)であったので、それもかけた呼称であったといわれています。

各務原へは晩年に訪れ、寺社や旧家に逗留して絵を描き、風景画や考古遺物のスケッチ、襖絵、掛け軸、屏風絵等を残しています。



蓑虫山人
(ハートビア安八歴史民俗資料館提供)

1. 蓑虫山人の生い立ち

蓑虫山人は、本名を土岐源吾といい、天保7年(1836)美濃国(岐阜県)安八郡結村に生まれました。家系は土岐源氏の流れをくみ、土地では昔から「結村の殿様」と尊敬されてきた豪農でした。源吾は、父武平治と愛妻なかとの庶子として生まれました。

3. 美濃国、そして各務原へ

蓑虫山人が放浪の旅を終え、郷里の美濃に帰ってきたのは明治29年(1896)、彼が還暦を迎えた年のことでした。彼は故郷結村に「六庵」を建立して、これまで収集した出土品や古器物を陳列しようと趣意書まで書いて、募金の準備に取りかかりました。現在の博物館建設にあたるものです。しかし、濃尾地震直後のことであったので、今はその時期ではないと一時中止を決断せざるを得ませんでした。

各務原を訪れたのは、いつの頃かはっきり分かつていませんが、美濃国に戻った明治29年から32年頃のことだと考えられます。山人は、各務原市域の寺社や旧家を訪れ、15点の絵日記を残しました。これらの作品は絵画として価値があるだけではなく、写真がまだ十分に普及していないかった時代に、当時の様子を具体的に知る歴史・民俗資料としての価値も有しています。

例えば、「各務郡那加村郷社手力雄神社之図」(資料1)には、那加尋常小学校(現那加第一小学校建設前の手力雄神社と石山付近の様子が描か



勾玉がデザインされた
那加第一小学校の校章

れていますが、彼が育った頃は、豪農土岐家も家産が傾いていた時代でした。山人は、母ながが亡くなつた嘉永2年(1849)14歳のときに、思うところあって郷里を後にし、その後48年間にわたって諸国を放浪しました。その足跡は全国各地に残されています。

2. 蓑虫山人の放浪の旅

山人は九州放浪中、南画家の日高鉄翁の手ほどきを受けました。また、全国を歩き、行く先々で神社仏閣に保存されている古名画の類を鑑賞したり、各方面で活躍している文化人と交わったり、旧家豪農の名品を見たりしているうちに、生来の才能が自然と磨かれて、独特的の作風を生んでいました。

山人は、48年間の旅のうち、20年間は東北地方へ及びました。山人は、考

生活用具一式を入れた笈を背負い、全国各地を放浪する山人の旅は、九州地方を手はじめに、中国・近畿・東海・関東を経て、明治10年(1877)には東北地方へ及びました。山人は考



資料5 掛け軸「七福神」(左)・「達磨」(右) (個人蔵)



資料4 屏風絵「天橋立」(個人蔵)



資料6 那加村字山後遠藤彦次郎家宅之図 (長母寺所蔵)



資料7 掛け軸「養老瀑布」(左)・「大僧正」(右) (個人蔵)

諸国歴遊の旅を終えた後は、名古屋市長母寺に寄寓する傍ら、自らが収集した資料を展示する「六十六庵」建設を構想しました。しかし、その願いを果たせないまま、明治33年(1900)この世を去りました。

約半世紀を旅に過ごし、自然と溶け込み、自然を描いた自らの作品と収集によって得た古器物の他は何一つ残さず、故郷を思いながら一生を終えた蓑虫山人。画人としても、考古・民俗学の先駆者としても、大きな功績を残しました。享年65歳でした。

(鷺見 隆司)



資料2 稲葉郡蘇原村大字古市場出土品の数々 (長母寺所蔵)

考古学に深い関心を抱いていた蓑虫人は、各務原でも多くの考古遺物を絵に残しています。山人が描いたこれらの作品は、貴重な考古資料といえるものです。遺物の絵には、所持する人の名前が書かれ、山人が子が伺われます。資料2の絵には、蘇原村古市場の外山と加佐美山から出土した土器や石器が描かれ、仲野亦市所持とあります。亦市は旧蘇原市所持とあります。亦市は旧蘇原

所持する人の名前が書かれ、山人が子が伺われます。資料2の絵には、蘇原村古市場の外山と加佐美山から出土した土器や石器が描かれ、仲野亦市所持とあります。亦市は旧蘇原

4. 各務原の人々との交流

村の村長を務めた人物です。

山人は逗留した寺社や家に対し

て、お礼に絵を描いて渡していますが、北島(前渡東町)の桃林寺には、山人が描いたとされる襖絵(資料3)が、北島(前渡東町)の桃林寺には、

今場所より木曽川沿いにあり、人が逗留していたと伝えられています。桃林寺逗留の折、山人は、近くの農家から食料などの援助を受けていました。そのお礼に絵を描いて渡しましたと言われており、北島の旧家にも山人が描いた屏風絵や掛け軸などが残されています(資料4・5)。

また、山人は那加山後の遠藤彦次郎邸を訪れ、その邸宅の様子(資料6)や夕暮富士、土山、境川等を絵に描いています。彦次郎は旧那加村の村長を務めた人物です。その子孫の方の家にも、山人が描いた掛け軸(資料7)3本、額装1枚が残されています。

このように、山人は各務原の寺社や旧家を訪れて何日か逗留し、風景や考古遺物を絵に描き、当時の各務原市域の人々との交流を深めていました。



資料3 襖絵「豊干寒山拾得之図」(桃林寺所蔵)

さて、由緒書だけでは歴史的な根拠としては不十分ですので、別の古文書等の史料で仏眼院の歴史を見てみたいと思います。

また、京都府立京都学・歴彩館所蔵の行政文書の内、明治時代の寺院に関する文書をまとめた綴りに、仏眼院移転に関わる様々な情報が記されています。明治5年（一八七二）の『宇治郡社寺境内外区別原図』（資料1）からは、仏眼院があつた場所は島になり、広さ七坪の物置小屋があるだけで、実体のない寺院になってしまっていたことがわかります。同年の『寺院進退録』には、仏眼院住職の役を勤める俊諦が重病となり、隠居したいと願い出たことが記されています。その際、醍醐寺に後継者

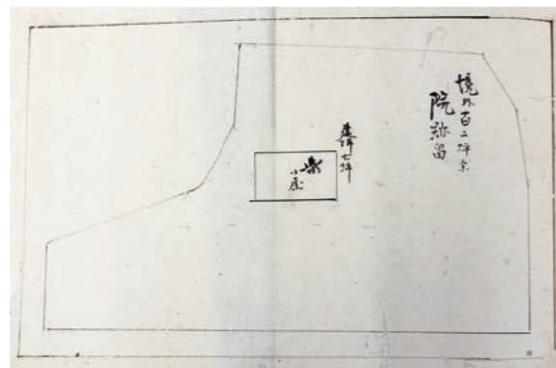
として、由緒書だけでは歴史的な根拠としては不十分ですので、別の古文書等の史料で仏眼院の歴史を見てみたいと思います。

醍醐寺文書『醍醐山上山下寺領帳』によると、慶長3年（一五九八）12月25日に、徳川家康、宇喜多秀家、毛利輝元らが、醍醐寺の寺領4622石を安堵しており、そのうち43石が仏眼院の寺領であることが記されています。中世以来の歴史ある醍醐寺の塔頭であることは間違ひなさそうです。

3 京都府の史料から

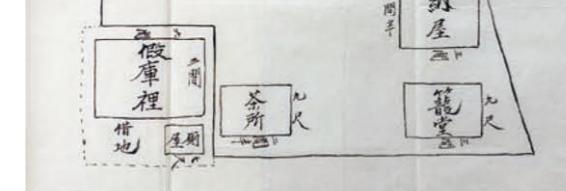
さて、由緒書だけでは歴史的な根拠としては不十分ですので、別の古文書等の史料で仏眼院の歴史を見てみたいと思います。

資料1 明治5年『宇治郡社寺境内外区別原図』仏眼院の図
(京都府立京都学・歴彩館所蔵)



の入選を頼みましたが、決まらないかたたようです。

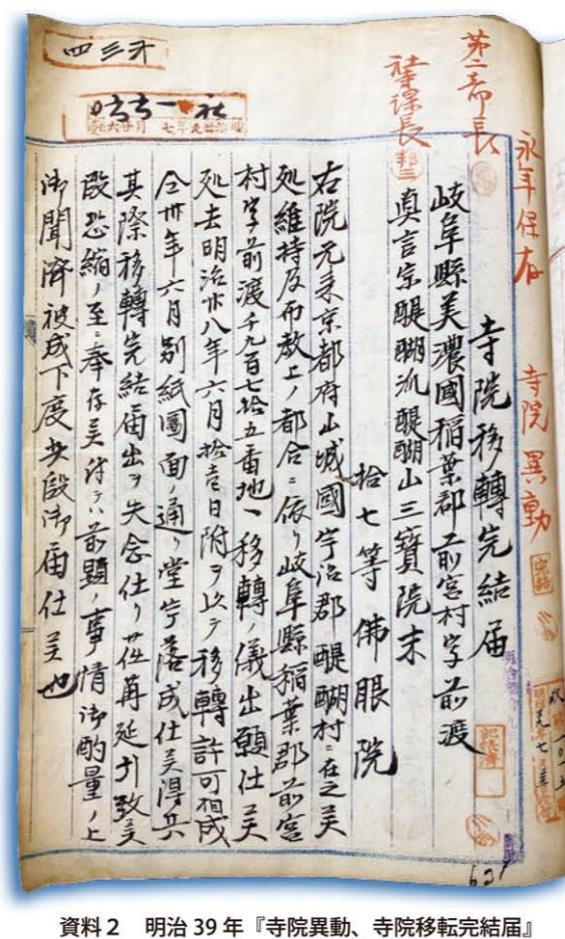
明治28年（一八九五）の『官省進達原議書』寺院移転の件伺には、岐阜県から京都府に対して、寺院移転の許可申請書が提出されています。仏眼院移転後、明治39年の『寺院異動、寺院移転完結届』（資料2）には、「維持及布教上ノ都合ニ依リ」仏眼院を前渡に移転したことや、移転完了後の仏眼院の建物敷地図（資料3）が記されています。京都府と岐阜県への正式な手続きを経ての移転であったことが分かります。



資料3 移転後の建物敷地図

市内には数多くの寺社があり、それぞれ何らかの由緒を持つています。由緒を裏付ける史料を探し出すことは、寺社を歴史に位置付ける上で重要なことです。仏眼院は京都から移転された寺院であつたため、京都府の公文書から由緒を裏付けることができました。

令和4年放送予定の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の影響で、「承久の乱合戦供養塔」が注目を集めると思われます。供養塔を見に来られた際には、併せて鎌倉時代以来の由緒を持つ仏眼院にも足を運んでいただきたいと思います。（長谷健生）



資料2 明治39年『寺院異動、寺院移転完結届』

前渡不動山仏眼院の由緒と京都



前渡不動山仏眼院は、前渡東町に所在する真言宗の寺院です。不動山の中腹には、「承久の乱合戦供養塔」があり、市指定史跡となっています。さて、前渡不動山の登り口に、「豊太閤祈願院」と書かれた石碑があること、また、仏眼院は京都から移転してきた寺院であるということをご存じでしょうか。豊太閤つまり豊臣秀吉は仏眼院とどのような関わりがあるのか、仏眼院はなぜ移転してきたのか、新たに発見した史料をもとに解説します。

1 京都にあつた仏眼院
仏眼院の由緒は、「富樫庶流旗本坪内家一統系図並由緒」に写しが記されています。もともと仏眼院は、建仁3年（一一〇三）、真言宗の高僧成賢（一一六一～一二三二）が自ら仏像を彌って真言宗醍醐派總本山醍醐寺の東谷に建立した塔頭（大寺院の山内にある小寺院）の一つと伝わります。慶長3年（一五九八）3月、豊臣秀吉が「醍醐の花見」の下見に訪れた際、仏眼院で当日の晴天を祈願したと伝えられています。その後も仏眼院は江戸時代を通じて存続していましたが、明治時代には堂宇を失い、実体のない寺院になっていました。

仏眼院は江戸時代を通じて存続していましたが、明治時代には堂宇と地名に移転しようと醍醐寺に働きかけたのが、初代住職となる富権秀之助（一八六四～一八九八）です。秀之助は、前渡坪内氏当主坪内昌壽の家臣山本軍八郎の息子です。若くして目の病気で失明しましたが、千葉の成田山で修行をしたところ片目



現在のお堂は、明治30年（一八九七）に完成したものです。「豊太閤祈願院」の石碑は、「京都にあつたころの仏眼院に秀吉が参拝した」という由緒を広めるために、昭和11年に設置されました。

の視力が回復したため、成田山で得度を受け「明心」と改名して、僧侶となりました。明治25年（一八九二）、矢熊山に仏堂を建てて厄除けを行う靈場としたところ、大変多くの人々が参拝に訪れていました。そこで、本格的な寺院を開山すべく、醍醐寺に仏眼院の移転を打診し、許可を得られ、名前と仏像を移しました。つまり、前渡不動山仏眼院は、明治時代に開山されたにも関わらず、鎌倉時代以来の由緒を持っています。

市重要文化財「懸佛」

明らかになつた

千手觀音の姿

人が現世での功徳や救いを求める、神仏に祈願する心は、古代も現代も変わりません。そんな日本人の宗教観や、精神世界を象徴する文化財のひとつが「懸佛」です。市内で唯一、文化財の指定を受けている懸佛、今回新たに明らかになつたその詳細を、皆さんにお知らせします。

「懸佛」という言葉を聞いて、どんな文化財であるかイメージできる方は、あまり多くないと思います。懸佛について知るには、その元来の名称である「御正体」という言葉がヒントになります。

■ 神々の「本地」を表現

懸佛とは「御正体」、すなはち神の本来の姿として、仏菩薩の姿を円形の銅板などに表し、社殿や仏堂などに懸垂して祀つたものです。

平安時代に発展した本地垂迹説

(日本古来の神は、本地である仏菩薩が人々の救済のためにとる仮の姿だとする説)と密接に関わるものであるといえます。

市重要文化財「懸佛」は、蘇原熊田町の寺院「平蔵寺」に伝わるもので、直径154mm、重さ150g。銅製で、製作年は不明ですが、形態から鎌倉時代前期のものと推定されます。昭和60年(一九八五)10月に市重要文化財に指定されました。

なお、岐阜県内では、県指定の懸仏が5件(62点)あり、記年のあるものでは、飛騨市神岡町の瑞岸寺所蔵の木製の懸仏が、永仁7年(一二九九)と最も古い資料になります。

令和2年3月、平蔵寺の懸仏を所有・管理する熊田町自治会から市に寄託の申し出があり、保管が決まりました。「観音の姿を見てみたい」という自治会の希望もあり、像容の復元を試み、作成したのが左図です。描かれているのは「千手千眼觀世音菩薩」。一般には「千手觀音」の名で知られる菩薩です。平蔵寺は、太平洋戦争中の空襲により焼失し再建されたとの記録があり、その事実を示すように、懸仏の大半は変色し、盤面も大きく歪んでいます。表面が剥落した箇所も多く、像容の判別が難しい部分が多くあります。

昭和60年の指定時の資料には、「合掌する手のほかに、二十四臂が線刻(中略)光背は不鮮明」とあります。

今回の調査で、左側に20臂、右側に21臂(合掌手を含む)が確認されました。

表面を斜めから見たところ。熱のためか大きく歪み波打っている。特に盤面の上半分、頭部周辺の損傷が著しく、菩薩の表情などが判別できないのが残念。



判別できた線刻部分を着色して表示
部分名称のうち、白色は持物を示す

た。手の数は、作例としても多い42臂が想定されますが、今回すべては確認できませんでした。

光背は火焔光を伴う二重円光で、頭上には化仏と、3段に十一面(上から一・四・六面)を戴き、蓮華座に結跏趺坐(足を組み座る)します。腰にまとった裳など衣のひだや装飾品まで表現されます。菩薩が各手に持つ「持物」も、判別できるものこそ多くありませんが、手にする指一本一本まで細かく描かれています。

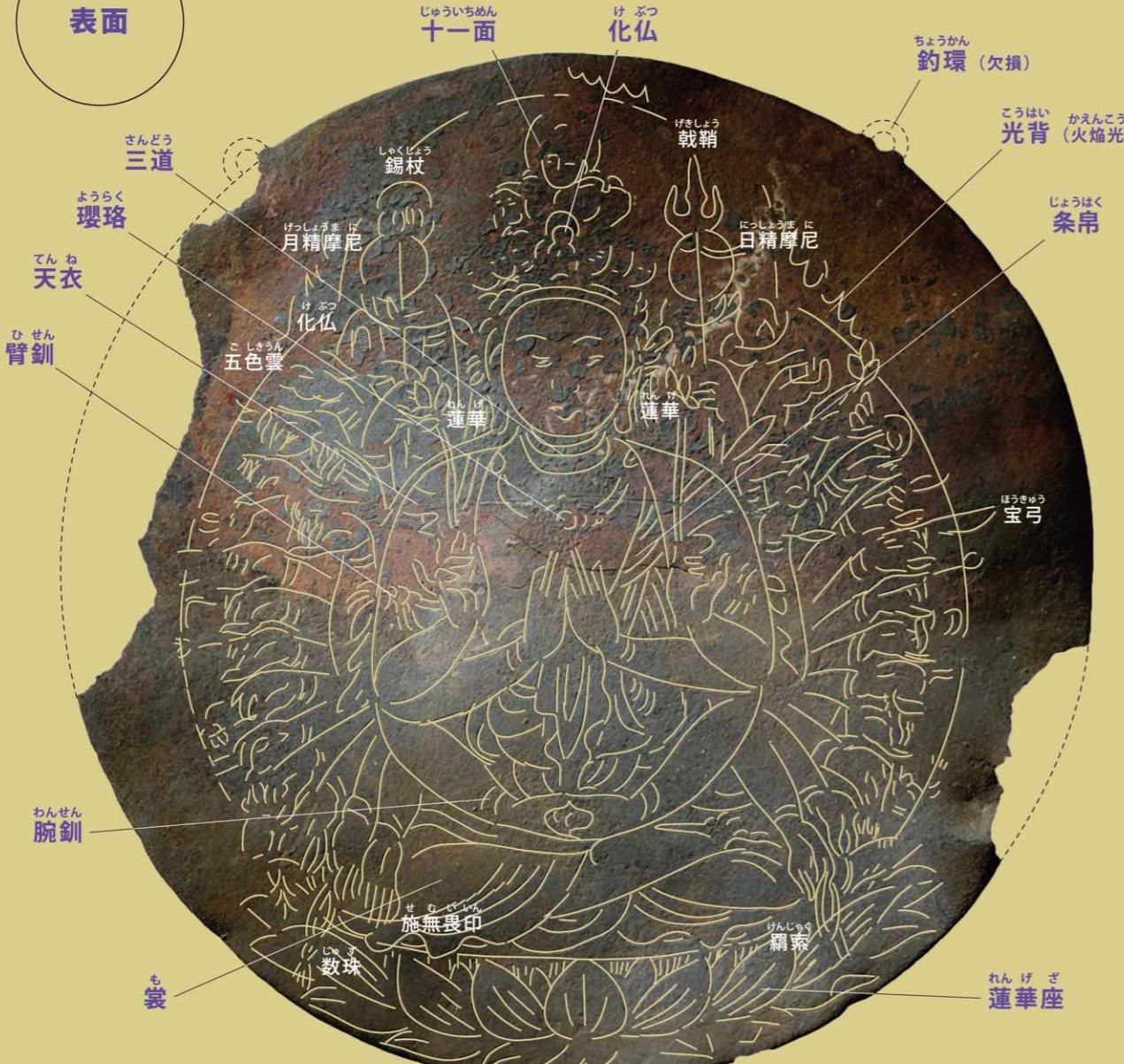
千手觀音に、救済への願いを込めて彫られた懸仏。市内で唯一の指定された資料として、今後も大切に保存していきます。

(阪野陽介)

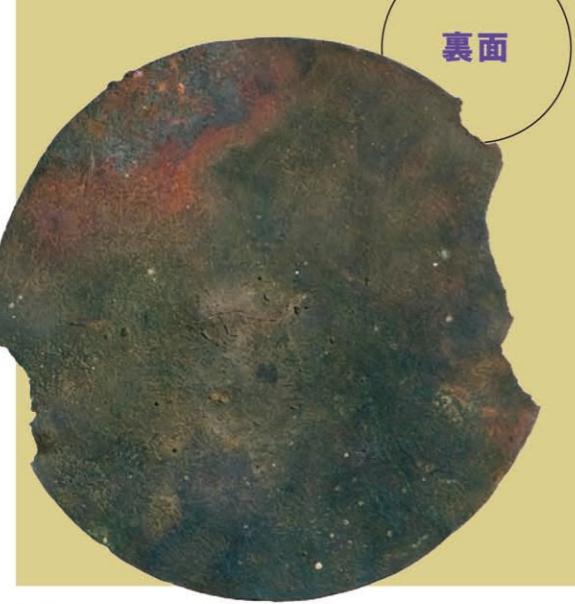
市重要文化財(工芸) 懸佛

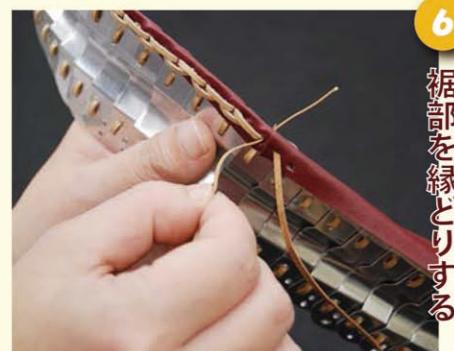
復元図(实物大)

表面



判別できた線刻部分を着色して表示
部分名称のうち、白色は持物を示す





服や肌に触れても擦れたり切れたりしないよう、革で縁どりをします。また、見た目のアクセントにもなります。



列ごとに横へ横へと革ひもでつなげます。穴に革ひもを通す順番は、脳内に完全インプット！(間違えたらやり直しです)



4 小札を曲げる

腰と裾の小札にはカーブがあります。きれいな曲線かつ同じ形にしなければなりません。作業をひとつひとつ、丁寧に行いました。



収納する時は…
コンパクトになります！

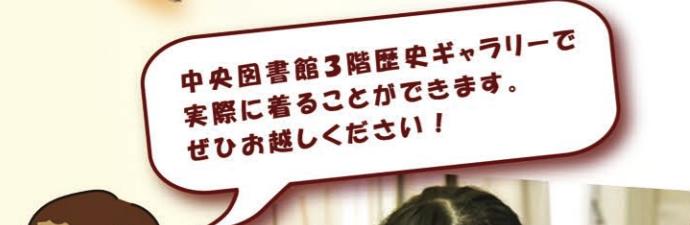


肩の部分は布で作ります。マネキンに着せて、それぞれの部位の列がきれいにそろうよう、革ひもの長さを調節します。



7 列同士をつなげる

上下の小札は余裕を持たせてつなげます。馬に乗る時、足を曲げても挂甲が自在に動きます。また、小さく収納もできます。



9 着られる挂甲の完成！



挂甲

作って、着てみて体感
再現にチャレンジ！

**キッカケは
「全身つて作れるかな？」**



(柳田智代子・村瀬美香子
来場者 再現部分を手にする)



アルミのササクレで手を切ったりしないためのコツコツ作業。プリント紙を剥がし、表面に残っているのりもふき取ります。



3 やすりがけ・のり取り

小札1枚につき穴が10~18個、再現のために使用した枚数が約860枚なので、全部で約12,000個の穴をあけました。



2 穴を開ける

アルミ板に小札の形(4種類)をプリントした紙をのりで貼りつけ、線に沿って切ります。切り口がゆがんだりしないよう慎重に…

■学校関連事業

| No. | 日 | 学校名 | 場所 | 人数 |
|-----|---------------|-----------------|---------------|-----|
| 1 | 7月15日 | 川島小学校 4年生 | 川島小(出前授業) | 135 |
| 2 | 9月17日 | 鵜沼第一小学校 2年生 | 中山道鵜沼宿 | 109 |
| 3 | 9月29日 | 各務小学校 6年生 | 船山北古墳、天狗谷古墳 | 47 |
| 4 | 10月21日 | 陵南小学校 6年生 | 陵南小(出前授業) | 92 |
| 5 | 10月23日 | 陵南小学校 5年生 | 炉畠遺跡 | 84 |
| 6 | 10月26日 | 鵜沼第二小学校 1年生 | 炉畠遺跡 | 32 |
| 7 | 10月30日 | 陵南小学校 6年生 | 坊の塚古墳、衣裳塚古墳 | 92 |
| 8 | 10月30日 | 陵南小学校 6年生 | 中山道鵜沼宿 | 92 |
| 9 | 11月6日 | 大垣市立牧田小学校 5、6年生 | 炉畠遺跡 | 31 |
| 10 | 11月7日 | 那加第二小学校 1~6年生 | 勾玉づくり(出前講座) | 33 |
| 11 | 11月10日 | 中央小学校 3年生 | 村国座 | 62 |
| 12 | 11月13日 | 瑞浪市立吉小学校 5年生 | 木曾川文化史料館 | 14 |
| 13 | 11月13日 | 鵜沼第二小学校 3年生 | 炉畠遺跡 | 30 |
| 14 | 11月19日 | 鵜沼中学校 1年生 | 中山道鵜沼宿 | 80 |
| 15 | 11月26日 | 鵜沼中学校 1年生 | 中山道鵜沼宿 | 110 |
| 16 | 11月27日 | 緑苑小学校 3年生 | 緑苑小(出前授業) | 24 |
| 17 | 2月3日 | 蘇原第一小学校 6年生 | 蘇原第一小(出前授業) | 185 |
| 18 | 2月8日 | 那加第一小学校 6年生 | 那加第一小(出前授業) | 143 |
| | 2月9日 | | | |
| 19 | 2月9日 2月16日 | 蘇原第二小学校 3年生 | 蘇原第二小(出前授業) | 70 |
| 20 | 2月17日 | 稻羽西小学校 3年生 | 稻羽西小(出前授業) | 65 |
| 21 | 3月5日 | 那加第三小学校 3年生 | 那加第三小(出前授業) | 67 |
| 22 | 3月9日 | 蘇原第二小学校 5年生 | 蘇原第二小(出前授業) | 94 |
| 23 | 3月12日 | 鵜沼第三小学校 3年生 | 中山道鵜沼宿町屋館・脇本陣 | 94 |
| 24 | 3月16日 | 各務小学校 3年生 | 村国座見学 | 33 |



Snapshot



新編 各務原の文化財 わがまちの宝物



市内の文化財の解説書として平成27年に発行した『各務原市の文化財』の改訂版として、『新編 各務原の文化財 わがまちの宝物』を刊行しました。

改訂にあたり、ドローン撮影をした写真を使用するなど、ビジュアル面でも関心を持ってもらえるよう構成しました。また、最新の知見をもとに、それぞれの文化財の解説文を新たに書き下ろしています。

体裁 A4サイズ・84ページ・フルカラー
価格 500円
販売場所 各務原市教育委員会事務局文化財課
(産業文化センター7階)
各務原市歴史民俗資料館
(中央図書館3階)

■出前講座・職員講師派遣

| No. | 日 | 講座先 | 内 容 | 人 数 |
|-----|--------|---------------|----------------------|-----|
| 1 | 7月1日 | ふるさと楽会 | 承久の乱と各務原 | 31 |
| 2 | 7月12日 | ニワリネット | 発掘調査から分かれる坊の塚古墳の姿 | 30 |
| 3 | 10月13日 | 東海学院大学 | 各務原にんじんを育む各務原台地を理解する | 40 |
| 4 | 10月16日 | ライフカレッジ稻羽西 | 小島三郎 | 20 |
| 5 | 10月16日 | 東海学院大学 | 各務原にんじんを育む各務原台地を理解する | 40 |
| 6 | 10月20日 | ライフカレッジ稻羽東 | 小島三郎 | 23 |
| 7 | 10月23日 | ライフカレッジ川島 | 小島三郎 | 25 |
| 8 | 11月4日 | 各務原市退職校長会 | 戦国の各務原 | 32 |
| 9 | 11月18日 | 川崎重工 | 各務原市が飛行機の町と言われるまで | 92 |
| 10 | 11月24日 | 中央ライフデザインセンター | 大牧1号古墳について | 18 |
| 11 | 12月9日 | 岐阜県地名文化研究会 | 三大英傑と伊木清兵衛 | 25 |
| 12 | 12月10日 | 航空宇宙博物館運営推進室 | 各務原市と航空機産業の成り立ち | 20 |
| 13 | 12月12日 | 各務原市地名文化研究会 | 戦国の各務原と伊木清兵衛 | 200 |
| 14 | 12月13日 | 古代遊学会 | 発掘調査から分かれる坊の塚古墳の姿 | 60 |
| 15 | 1月8日 | ヒストリー各務原会 | 坊の塚古墳発掘調査報告 | 25 |
| 16 | 3月9日 | 各務原歴史ウォーキング | 鵜沼南西部の史跡見学 | 8 |
| 17 | 3月12日 | ヒストリー各務原会 | 伊木清兵衛 | 16 |
| 18 | 3月26日 | ヒストリー各務原会 | 古墳の変遷からみた各務原の古代史 | 20 |

鵜沼第二小学校 / 炉畠遺跡見学



那加第二小学校 / 勾玉づくり



鵜沼中学校 / 中山道鵜沼宿見学



■企画展

「小島三郎」 企画展

会期 / 11月21日(土)～12月20日(日)
会場 / 中央図書館3階展示室A
来場者 / 704人

(関連事業)
オープニングトーク「小島三郎」
△企画展開催に併せ、小島三郎の生涯を、当課学芸員が紹介した。

「川島の役場の移り変わり」
会期 / 1月26日(火)～3月26日(金)
会場 / 中央図書館4階
来場者 / 65人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 3月26日(金)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 180人

「熊田山北古墳群B地区現地説明会」
会期 / 3月26日(金)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 9月12日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 12月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 1月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 2月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 3月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 4月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 5月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 6月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 7月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 8月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 9月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 10月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 11月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 12月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 1月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 2月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 3月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 4月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 5月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 6月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

「鵜沼古墳遺跡D地区現地説明会」
会期 / 7月27日(土)
会場 / 川島市民サービスセンター1階ロビー
来場者 / 130人

■企画展

会期 / 11月21日(土)～12月20日(日)
会場 / 中央図書館3階展示室A
来場者 / 704人

(関連事業)
オープニングトーク「小島三郎」
△企画展開催に併せ、小島三郎の生涯を、当課学芸員が紹介した。

「承久の乱と各務原」
△なぜ各務原は承久の乱の合戦場となつたのか。史料・地名等の観点から、当課学芸員が解説した。

「各務原野外セミナー」
△新発見！蘇原の史跡探訪ウォーク

「蘇原の村絵図を歩く」
△蘇原の村絵図を歩く

「蘇原の古墳を歩く」
△江戸時代の蘇原の古墳を歩く

「蘇原を旅する」
△江戸時代の紀行文に沿って山田寺や加佐美神社などの史跡を巡つた。

「蘇原の古墳を歩く」
△江戸時代の紀行文に沿つて、現在の地形を歩いて確認しながら巡つた。

「蘇原の古墳を歩く」
△江戸

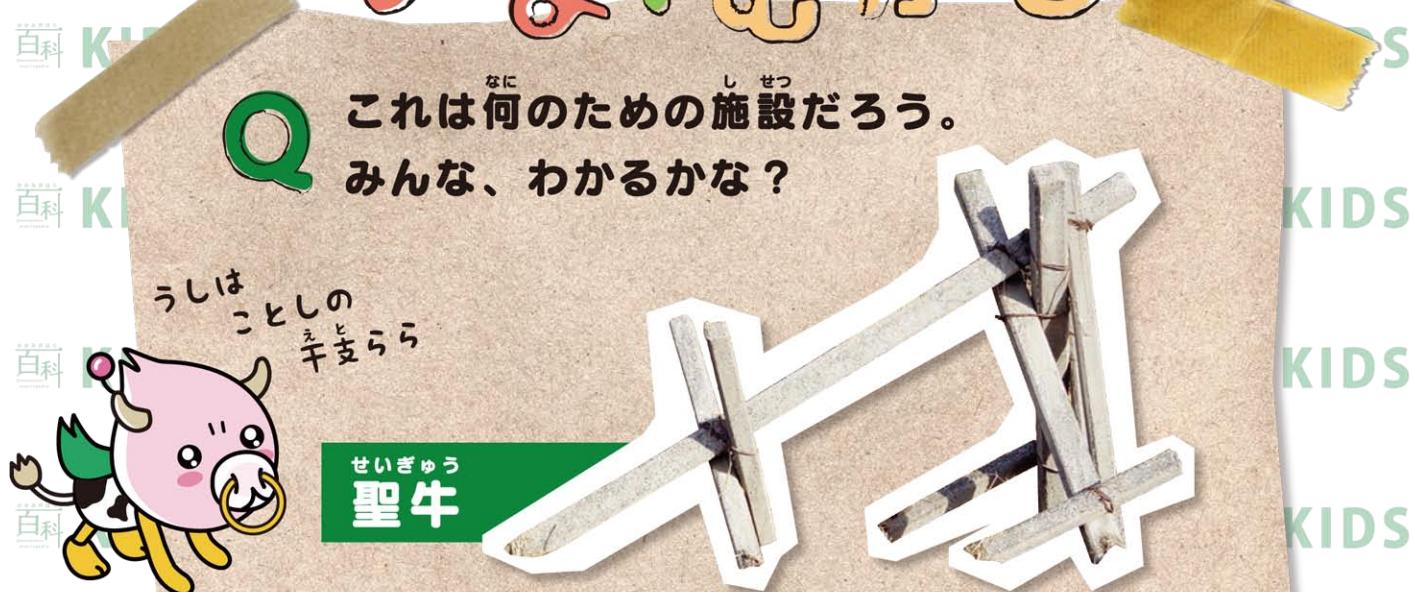
もっと

KIDS

知りたい!

いま・むかし

かかみがはら百科
for キッズ
民具編



せいぎゅう こうずい むら まも かわぎし
これは、「**聖牛**」といって、川の洪水から村を守るため、川岸に
せっち かわ なが よわ ていぼう こわ ふせ
設置されたものです。川の流れを弱め、堤防が壊れるのを防ぐ
つか
ために使われました。

かわしま ちく きそがわ ちいき うし つの ふぶん に
川島地区など木曽川ぞいの地域では、牛の角の部分に似ている
よ
ことから、「うし」とも呼ばれました。
いま しょうは お ばしょ
今は、消波ブロックが置いてある場所がほとんどですが、川島
いなば かせんじき み
や稻羽地区の河川敷には、今も「うし」を見るることができます。



しょうわ ねん かわしまちょうまつくらとせんじょう
昭和32年(1957)の川島町松倉渡船場。
かわ なか せいぎゅう た 川の中に聖牛が立っています



いま かわしままつくらちょう しゃしん かせんじき お
今この川島松倉町の写真。河川敷に置か
せいていゅうみ
れた聖牛を見ることができます



市公式ウェブサイトにある「ミュージアム at HOME」では、
市内の古い道具や、文化財などをわかりやすく紹介しています。
おうちで、ゆっくり各務原の歴史にふれてください！